

令和3年度 中学生の「税についての作文」

一般社団法人柏法人会会長賞

「少子高齢社会を生きる私たちと税」

柏市立柏第四中学校 三年 古谷 奈々

私は今回、税について調べてみて、少子高齢化が進む未来のために、歳出をもっと社会保障費に充てるべきだと思った。

医療や介護、福祉を手厚くし、現在働いている人々の老後に安定した年金を届けるためには、今の社会保障費と将来の働き手では間に合わない。財政について詳しく調べてみると、令和三年度の歳出内訳のトップは社会保障費、そして二位が国債費であった。私は、国債費が歳出の二割以上を占めていることに驚いた。日本は今まで多くの借金をしてきた上に、年々公債金の額が増えている。さらに注目すべき点は、公債金が歳入の四割を占めているため、国債費が追いついていないことだ。このままでは国の借金がどんどん増え、必要な費用に歳入を回せなくなる恐れがある。

そこで私は、なぜ公債金に歳入の多くを頼ってしまうのか、考えてみた。

要因の一つは、税収を上回るお金を政策に使っている点だと思う。税金の使い道について調べていくうちに、税金の「無駄使い」があることが分かった。例えば、対象期間外の費用を予算に含めたり、学校の改修や耐震化工事にかかる費用の面積を過大に設定していた、という事例が挙げられる。

私はこれを知って、今すぐにでも予算の見直しをするべきだと思った。もちろん、私が今あたり前のように学校で学べ、安心した生活が送れているのは、税金のおかげだと感じている。しかし、十分すぎる予算は、今の充実感と引き替えに、未来に負担を残していることに気づいてほしい。予算を見直し、余分な歳出を抑えることで、公債金に頼る金額を大幅に減らせるのではないだろうか。そうすれば、少しずつでも借金の増加を抑制することができるはずだ。

また、税を負担している私たち国民にとつて、「納得感」を持つことはとても重要だと思う。日本の税収の柱となるものは消費税だ。所得税や法人税とは違い、所得や年齢に関係なくみんなが平等に支払うため、景気に左右されにくく、税収が安定していることが消費税の特徴である。しかし、ヨーロッパでは消費税率二十パーセント超えの国も多いい中、日本はわずか十パーセント。世界と比べても低い。つまり、公債金の依存から抜け出すためには、この消費税率を引き上げる可能性も考えなければならぬ。増税に反対している人の中には、税金の「無駄使い」が気がかりになっている人もいると、私は思う。余分な歳出を抑えることで、みんなが「納得感」を持てる税金の使い道を探していく必要がある。

私たちが働き手となったときに、少しでも多くの歳出を社会保障費に充てられるよう、少子高齢社会を受け入れて、今から少しずつ借金返済に取り組んでいくべきだと思う。そして、安心して高齢者が暮らせる未来を実現させていきたい。